

SS, S評価について

SS、S評価は研究院、研究科等の専任教員数の20%強を目安とする。

1) 学術面

- SS：当該分野において、卓越した水準にある
- S：当該分野において、優秀な水準にある
- A：当該分野において、良好な水準にある
- B：当該分野において、相応の水準にある
- C：上記の段階に達していない

2) 社会、経済、文化面

- SS：社会、経済、文化への貢献が卓越している
- S：社会、経済、文化への貢献が優秀である
- A：社会、経済、文化への貢献が良好である
- B：社会、経済、文化への貢献が相応である
- C：上記の段階に達していない

学術面に関するSS, S評価

「卓越した水準(SS)」とは、研究業績の独創性、新規性、発展性、有用性、他分野への貢献などの点において、客観的指標等から判断して、当該分野で学術的に最も優れた研究の一つであると認められ、当該分野ないし関連する分野において極めて重要な影響をもたらしている水準にあることを指します。

「優秀な水準(S)」とは、SSにまでは至らないが、当該分野で学術的に優れた研究の一つであると認められ、当該分野ないし関連する分野において重要な影響をもたらしている水準にあることを指します。

客観的指標例

- ・当該分野で定評あるレフェリー制の学会誌・専門学術誌での記載
- ・論文掲載時のレフェリーによる評価
- ・専門雑誌、新聞などでの書評・紹介・引用
- ・研究史・学界動向輪文等における言及、学術書等の文献目録における記載
- ・大きなImpactFactorの学術雑誌に論文が掲載された。
- ・論文のCitationIndex(被引用数)が大きい。
- ・分野毎のトップ1%論文、あるいはトップ5%論文
- ・当該研究者が高いh-index値を持つ

- ・研究業績により得られた学会賞・学術賞・国際賞等
- ・研究業績に関わる招待講演・基調講演を行った当該分野における内外の定評ある学会・国際会議等(学会、会議名、参加人数、講演時間、プレナリ講演か否か、開催年を含む)
- ・権威ある国内外の学術学会のフェロー
- ・新聞、テレビ等での報道

第三者による評価結果として、学術誌の査読者や書評者等、外部の第三者が判断し、公表された、あるいは公表に準じる形で教員個人に示された評価結果は含まれますが、学会発表や研究会等での意見を主観的に判断してまとめたものや当該研究業績に対する他の研究者からのコメント、大学独自で実施された外部評価の結果等は含まれません。

なお、外部の第三者が判断した評価の結果であっても、当該研究業績で扱う研究領域や研究テーマに関する重要性、独創性、先端性等について評価されたものは、当該研究業績の内容に直接関係するものではないので、根拠として活用できません。

社会、経済、文化面に関するSS，S評価

「貢献が卓越(SS)」とは、以下の領域において、客観的指標等から判断して、極めて重要な影響や極めて幅広い影響をもたらしている水準にあることを指します。

「貢献が優秀(S)」とは、SSにまでは至らないが、重要な影響や幅広い影響をもたらしている水準にあることを指します。

領 域 例

地域社会への寄与、国際社会への寄与、政策形成への寄与、診療・福祉の改善への寄与、生活基盤の強化、環境・資源の保全への寄与、知的財産・技術・製品・製法等の創出あるいは改善への寄与、新産業基盤の創出、専門職の高度化への寄与、新しい文化創造への寄与、学術的知識の普及・啓発等

客観的指標例

- ・当該業績の利用・普及状況や地域、特定の産業分野での応用・活用状況、政策への具体的な反映状況
- ・それぞれの専門分野に関わる教科書・啓蒙書などの執筆の場合には、それらが権威ある書評などに取り上げられている、あるいは、長期にわたり広く利用され影響を与えている。